

フレンテ

フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

Frente

vol.38
2009.7

Report

男女共同参画
強調月間 フォルティッシモ

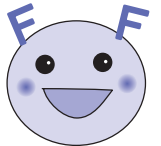
ff イベント報告



三重県内男女共同参画センター3館
& 5市連携映画祭 2009

県内8ヶ所に
広がりました!

「男女共同参画の視点で映画を観る」



フレンティ



第二の人生もいきいきと!

Report 堀田力さん講演会 15th ANNIVERSARY

60からの生きがい人生

コラム シリーズ 高齢社会を生きる

「健康まちづくりへのお誘い」

男性の元保育士の目線から
そだちあう場づくりへ
b.c.a.f.e 河村隆太さん

この秋発刊

三重の女性史

伊藤康子さん エッセイ

Essay

「暮らし続けたい三重を育てよう」

コラム

フレンテみえ

企画・運営サポーターの

窓

「女性史編さんで得たもの」

連携機関紹介

女性研究者支援モデル事業
パールの輝きで、
理系女性が三重を元気に
野菜茶業研究所
養殖研究所

男女共同参画 強調月間 Report

フォルティッシモ



フレンテみえでは、内閣府の主唱する男女共同参画週間（6/23～29）にちなみ、6月を「男女共同参画強調月間 **ff**」とし、さまざまな事業を行っています。

過去最高の人出となった **ff** 事業の様子を抜粋してご紹介します。

6月5日（金）・6日（土）開催



2010年も
ご期待
ください！

フレンテまつりは、フレンテみえ登録団体同士の交流とネットワークづくり、また、県民のみなさんとの交流を目的に、登録団体の自主企画・自主運営で開催しています。

今年で6回目を迎えるフレンテまつりは、今までの中で一番多い35団体が参加しました。参加団体が実行委員会を立ち上げ、広報や展示の見せ方等を話し合い、より多くの方々に日頃の活動成果を見ていただける工夫を凝らしました。

初日はあいにくの雨の中でのスタートでしたが、親子連れや中高年の方など幅広い年代の方々にお越しいただきました。参加者からは「毎年参加していますが、年々内容が充実していますね」との感想もいただきました。また、実行委員会からは、このまつりを通して登録団体同士の交流を深め、ネットワークの拡大を進めていきたい、との声があがりました。

恒例となっている人気のカフェコーナー、舞台発表や広場でのダンス、各団体の活動発表展示や、フリーマーケットなども開催されました。また、初参加の三重県立看護大学の学生さんたちによるリラクゼーション講座や手洗い講座なども行われました。



フレンテみえ企画・運営サポーター自主企画事業

あなたも参加者から参画者へ ～わたしの男女共同参画加速プログラム～

今回の企画では「あらゆる分野への女性の参画促進」を目的に開催。女性の参画を促進するために「まちづくり（防災）」「はたらく」「202030（※ **一〇×モ** 参照）」の3つのテーマのもと、「わたしたち」には何ができるか、「わたしの男女共同参画加速プログラム」を考えました。

6月27日（土）開催

フレンテみえでは県民からなるフレンテみえ企画・運営サポーターとともにさまざまな事業の企画・運営をしています。

ワークショップ と 事例紹介の様子



三重大学名誉教授の佐伯富樹さんから「女子差別撤廃条約からみた女性の参画加速プログラム」の講演をいただきました。



平成20年度「男女がいきいきと働いている企業」選考委員会奨励賞受賞の日本土木工業株式会社（御浜町）から、男性主体のイメージが強かった建設業で女性が活躍されている事例紹介がありました。また、四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」からは政策・意思決定分野への女性参画促進に向けての取組紹介、企画・運営サポーターの稲岡さんからは多様な参画の事例として「ユビキタスのパソコン要約筆記」の紹介もありました。

日本土木工業株式会社さんの取組は次号の情報誌などで詳しく取りあげていきます。どうぞお楽しみに！

一〇×モ

「202030」とは・・・ 国や県では、重要項目として「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的立場に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する」としています。

三重県内男女共同参画センター3館 & 5市連携映画祭 2009

映画でみつげよう！
男女が共に生きるヒント

連携映画祭も今回で3回目！
男女共同参画センター3館で始
まった取組は昨年は伊賀市、名
張市の2市が、今年にはさらに伊
勢市、志摩市、亀山市の3市が
加わり広がっていきました。

作品選びはもちろんのこと、
上映スタイルも各地域に根ざし
たさまざまな形で行いました。

映画上映後に語り合うアフ
タートークも各会場で開かれ、
受け止めたメッセージを共有し
ました。

映画祭の皮切りは大竹洋子さんのシネマトーク 「男女共同参画の視点で映画を観る」！

東京国際女性映画祭ディレクターとしてスタート時から
中心的に関わってきた講師の大竹洋子さん。2008年
には長年映画界に貢献されたことから、山路ふみ子映
画功労賞を受賞されました。

「東京国際女性映画祭は1985年に始まって以来、世界
の女性監督を紹介する一方で日本に女性監督を輩出する
ことを目的に開催しています。その結果として女性の監督が
増えてきました。

女性映画祭ではジャンヌ・モローさんとの出会いも。
『今までの文化は男性が中心だった。そこへ女性の視点
を加えて、真の人間文化を創ろう』という彼女の言葉に
ハッとさせられたこともあります。



これからの女性映画祭で
は“観る人たちに生きてい
く勇氣や希望を与えられる
ような作品”を上映し、ま
だ少数派である女性監督の
すばらしい作品をたくさん
の方に観ていただく機会を
広げる取組を続けたいで
す。」

6/6



マルタのやさしい刺繍
三重県男女共同参画センター
「フレンドみえ」

80歳の主人公が伝統的価値観の縛りにとら
われず、自らの意思を貫き行動したことが
周りや地域を変えていく。
「いつから始めても遅くない！」「自分の意
思でやってみることへの勇氣をもらえた」
などの感想をいただきました。

★
今回の映画祭
各市の会場から
一言！

6/20



ちゃんこ
鈴鹿市男女共同参画センター
「ジェフリーすずか」

主人公の女性が相撲部に入部するという「横へ
のチャレンジ」、さらに相撲部主将になるとい
う「上へのチャレンジ」。一生懸命な姿の美しさ、
かっこよさ、輝きを観て、「チャレンジすること」
について考えていただきました。

6/27



ハッピーフィート
伊賀市

子どもも大人も楽しめ、幅広い年齢層で男
女共同参画を考えられる映画。「個性を認
めることについて考えさせられた」「行動
に移す主人公に感動した」などの感想をい
ただきました。

「いきいき未来いが2009」
同時開催しました！

6/27



ぐるりのこと
伊勢市

ごく普通の夫婦に突然悲劇が襲う。
一人一人は無力だが、ぐるり（まわり
の誰か）とつながることで希望を見出
し、困難を乗り越えていく映画。「夫
婦のあり方を考えるきっかけとなっ
た」との感想を多くいただきました。

たくさんのご参加
ありがとうございました

7/4



ミス・ポター
四日市市男女共同参画センター
「はもりあ四日市」

上流階級の女性が結婚せず、
また仕事を持つことなど許
されない時代に、絵本作家
の夢を成し遂げる映画。「固
定概念を打ち破り、人生を
自らの手で切り開いていく
女性の姿を見て勇氣づけら
れた」との感想をいただき
ました。

西の魔女が死んだ



7/5
志摩市

自分らしい生き方について、また人との
関わりについて見つ
めなおすきっかけに
なりました。

自然の中でのおばあさんとの暮らしを通して
少女が“生きる力”を取り戻していく作品。

7/4
名張市

今忘れかけている家族の絆や、人
との関わりについて考えていただ
く機会となりました。

6月13日(土)
「名張市男女共同参画センター」
オープンしました！

7/12
亀山市

亀山市の男女共同参画を推進する
条例の基本理念と同じ思いの「自
分で考え、自分で決めることの大
切さ」を考えました。

「亀山市男女が生き生き働く
条例」制定1周年記念イベント
と同時開催しました！

★
これから
映画で
男女共同参画を
考えましょう！

暮らし続けたい三重を 育てよう

男子平均42万4892円、女子平均19万6482円（46・2%）、2007（平成19）年三重県で5人以上の規模の企業の現金給与総額である。女性の社会的値打ちは男性の半分以上、これで公正な社会といえるだろうか。この差には、勤務時間、年齢差など合理的に説明できる部分もあるが、それにしても女性の働きは男性の半分にしか評価されないことを、なぜ三重の女性は黙っているのだろうか。女性の収入が少ないから、パートや派遣といった働き方しかないから、夫の暴力に耐えて暮らし続ける人もいるだろう。経済力は自分らしい生き方の第一の基礎である。見まわせば、学歴も仕事も同じ男女教員であっても女性校長は少ないし、女性議員も少ない。女性にとって行き届いた教育や地域政治がすすめられるだろうか。

祖母や母の時代にはもっと我慢を強いられていた。「女のくせに」「女だから」「女だてらに」というような言葉がちりばめられて。そういう差別感の中で生きたくない人は、三重から出て行ってしまおう。

県民の半分は女性。女性が働かなければ三重の経済はまわっていかない。女性が生活不安を感じる時、結婚も子どもを生み育てることも控えてしまう。すでに女性も自分の人生を自分で決めたいと思う時代になっている。

女性の目線で見ると、三重はどういう社会だったのか。女性にとっての民主主義を実現する道筋はどのようなものだったか。探る学習の一つが女性史である。三重は女性史が少なかった。これから成長していく存在である。

2005（平成17）年3月、三重県の女性史作成が提起され、この秋、明治維新以降の全体像が姿を現す。一緒に「三重の女性史」を作ろうという「フレンテみえ」の呼びかけに手をあげた人は多くはなかったが、熱意は氷河を溶かすほどだった。情報誌『Frente』に「三重の女性史作成は今」の報告が連載され、埋もれていた女性が輝き始めた。語れる女性、記録されるべき女性はいかに、陽の目を見ることができなかった。考えてみれば戦後最初の女性代議士の一人もいたし、四日市には「母の歴史」で知られた生活綴り方の仲間があり、鈴鹿には差別される側が拒否しなければ差別はなくなると主張した裁判があったのだ。

少女が逃げたいと思わずにすむような三重を築く、その第一歩は「三重の女性史」を読むこと、そして祖母や母や自分の暮らしを直視し記録すること、さらに女性が望む社会を想像し目標を掲げ、そのような三重に変えよう。そうすれば女性の実力は伸び、平和の中に自立する生き方を掴んで自分のものにする事ができるのではないだろうか。男性も職場だけでなく、地域や家庭で自分の居場所を発見できるのではないだろうか。県民の幸せは普通の生活者の民主主義の中にあるのだから。

この秋発刊！
三重の女性史

■執筆者紹介

伊藤

康子さん



専門分野は日本史、女性の生き方論。元中京女子大学短期大学部教授。現在は愛知県史編さん委員会特別調査委員、愛知女性史研究会会員。「三重の女性史」作成では女性史執筆・編集委員長、女性史編さん委員長を務める。
著書に『女性史入門』（1992年、ドメス出版）、『闘う女性の20世紀』（1998年、吉川弘文館）、『新 日本女性史』（1998年、学習の友社）、『草の根の女性解放運動史』（2005年、吉川弘文館）、『女性史政治とどう向き合ってきたか』（共著、2005年、市川房枝記念会）『草の根の婦人参政権運動史』（吉川弘文館、2008年）など多数。

男女共同参画フォーラム～みえの男女2009～

11/13（金）
14（土）

5年の年月をかけて県民の皆さまと協働で「三重の女性史」作成に取り組んできました。今年の「男女共同参画フォーラム」ではこの「三重の女性史」の発刊記念イベントも実施します。1日目には女性史研究会

のメンバーによるワークショップ、2日目のオープニングでは伊藤康子さんをお迎えて「三重の女性史」をお披露目します。

9月頃募集開始予定です。

みなさんのお参加をお待ちしています！



b-Cafe (津市)
河村隆太さん

そだちあう交流の場を 地域といっしょにつくりたい

日本の男性の育児休業取得率はまだわずか 1.5%。国際的にも著しい低さです。男性の家事・育児参画へ参画できる環境づくりへの取組が必要です。

保育士として、子どもたち、子どもをとりまく人たちに関わってきた男性が、誰もが安心して集えるカフェを開いた。そんな情報を聞いて、取材に駆けつけました。

一元保育士とうかがいましたが？

もともと子どもが好きで子どもと接する仕事がしたかった。だから自然と保育士になる道を選びました。男性の保育士は正規職員の採用はなく、アルバイトでの採用でした。今も男性の保育士は少ないですが、当時はもっと少なかったですよ。

一元保育士からの転身のきっかけは？

いつか自分で独自のことができるかなと考えていた時に、おもてなしの仕事で、小さなお子さんを連れた親御さんが気軽に訪れる場所を作りたいと考えるようになりました。それと保育を繋げて何ができるか考えていく中で、カフェを始めてみようと思ったんです。

同じ保育士をしていた中野さんが協力してくれたのもきっかけになりました。それと、心を病んだり疲れ果てた人たちが、料理でもてなされ、話を聞いてもらうだけで、安らいで帰っていける。食べることにはそれだけの力があると思いきその重要性を感じたのもきっかけですね。

仕事も子育てもどっちも大切

一念願のカフェ、いかがですか？

店内ではベビーマッサージの講座なども開いています。そのときに参加され知り合ったお母さんたちが、意気投合して一緒にお店に来てくれたことは嬉しかったですね。お店が出会いの場となって、人と人が繋がっていくことにやりがいを感じています。

子育て世代の方だけでなく、年輩の方や学校帰りの学生などさまざまな方に来ていただいています。常連客が増えていくことで、地域との繋がりができてきたと実感できるのは嬉しいですね。

仕事と子育て、河村さんは？

気持ちの中では育児が一番。実際に時間をかけられているかわからないですけど、子どもとしっかり関わりたいかったので、仕事を選ぶ上で、長時間拘束される仕事は子どもと関わる時間が減るので避けなくなりました。どちらか一方を選ぶのではなく仕事も子育てもどちらも楽しんでいきたい。

これからの夢は？

お店の夢は、男性、女性問わず幅広い年代の方に来ていただくことです。赤ちゃんがいる場として定着すれば、保育を目指す学生さんたちや今からお母さん

になる妊婦さんがここに集まって先輩たちからアドバイスを受ける。そんな情報交換の場として定着させたいです。

ますます充実ですね！

理想は寺子屋！ベビーマッサージやコンサートなども充実させて、楽しいことがありつつ、偉い人が居て、教えていくのではなくそこに集う人たちが互いに助け合え、教えあう感じにしていけたら。

最後に子育て中のお父さんにメッセージを！

子どもが子どもでいられる時間は限られています。しっかり楽しんでください。子育ては楽しいですよ！

b-Cafe

〔所在地〕津市高茶屋 3-15-10

〔ホームページ〕<http://www.b-cafe.org>



古民家を改造したカフェは安全対策など細かい気配りがあふれています。



講演会 パパを楽しもう！

～笑う父親になるためのファザーリングの極意～

「子育てパパ力検定」や絵本の読み聞かせなどで活躍中の安藤哲也さん（特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン代表理事）をお招きして講演会を開催します。講演会のほかにも安藤さんを囲んでの

「パパたちのしゃべり場！父親トークセッション」も行い地域で活動するパパたちの取組紹介（河村さんも登場！）もさせていただきます。ご参加お待ちしております！

8/29 (土)

13:30 ~ 16:00
多目的ホール他



三重県伊賀保健所長 佐甲 隆さん

1951年三重県生まれ。元小児科医。県内の保健所長、三重県立看護大学教授などを経て、本年から伊賀保健所長。ヘルスプロモーションを基礎にした公衆衛生を目指す。

執筆者

高齢者の健康 その2

健康まちづくりへのお誘い

与謝蕪村の句に「麦時きや百まで生きる兎ばかり」という句があります。さて、百まで生きる顔とはどんな顔でしょうか？

松阪市に「健康づくり虹倶楽部」という健康づくりグループがあります。住み慣れた地域で、いきいきと健康やかに暮らせるよう、住民が自主的に、地域のふれあいやつながりを大事にしながら健康づくりの輪を広げています。現在市内の13地区で、助け合い、工夫しながら、仲間と一緒に健康づくり活動を楽しんでいます。

また伊賀市では36地区で、健康づくり推進員さんが「健康の駅長」になって、「忍にん体操」を楽しんだり、様々な活動を行っています。また健康的な食の普及のためのボランティア活動の食生活改善推進員（ヘルスメイト）さんなど、自主グループの活動も盛んです。皆さんの地域でも、きっと同様の活動があります。ぜひ、ご参加ください。みなさん、本当に「百まで生きる顔」をして、元気に明るくはりきつていらつしゃいます。

今までは女性が熱心に活動されていることが多かったのですが、高齢社会になって、男性の参加も増えていきます。まさに、男女共同参画で、人が元気になり、町が生き活きてきます。地域が元気になることで、住む人も健康になるような活動が健康まちづくり、ヘルスプロモーションです。健康は一人の努力では、得にくいものです。助けあうことができることは、まちの財産です。みんなの力をあわせて、負担になる坂道の勾配を下げながら、明るく楽しく、苦労知らずで健康になり、長生きしていきましょ。

佐甲さんのコラムは今回で終了です。次回のシリーズ「高齢社会を生きる」もどうぞお楽しみに！

「女性研究者支援モデル育成事業」

パールの輝きで、理系女性が三重を元気に

“女性の科学者が少ない”現状から国では女性科学者支援の取組を進めています。三重大学では現在、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」として「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」というプロジェクトを地域で連携を取りながら進めており、フレンテみえもこの事業を支援しています。このコーナーでは年間を通じてこのプロジェクトの連携機関をご紹介します。

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

野菜茶業研究所

明治35年6月、農事試験場園芸部として静岡県庵原郡興津町に創設。昭和56年11月に現在の地に移転完了。野菜・茶産業の発展と国民の健康で豊かな生活に貢献することを目的に、消費者等のニーズに対応した高品質な野菜・茶を低コストで安定供給する技術開発を目指した研究に取り組んでいます。

【理系女性研究者】

- 吹野伸子さん（野菜育種研究チーム主任研究員）
現在の研究課題：DNAマーカーによるメロン、キュウリの効率的な選抜技術の開発
- 菊地郁さん（野菜ゲノム研究チーム主任研究員）
現在の研究課題：受粉なしで実がでる単為結果性ナスの特性の研究
- 福田真知子さん（野菜ゲノム研究チーム研究員）
現在の研究課題：レタスのとう立ちの研究



野菜茶業研究所

◎安濃本所
〒514-2392 津市安濃町草生 360
TEL:059-268-1331 FAX:059-268-1339
URL: <http://vegetea.naro.affrc.go.jp/>

独立行政法人水産総合研究センター

養殖研究所

「つくり育てる漁業」への貢献を目指し、世界をリードする水産増養殖技術の開発研究を行っています。水産業に関わる様々な生物が研究の対象となっており、安定的・効率的な生産のための調査研究を行っています。また、研究所の活動を広く一般の方々に知っていただくため、研究所の一般公開や職場体験などを実施しています。

【女性研究者】

- 松本才絵さん（生産技術部 繁殖研究グループ・研究員）
現在の研究課題：二枚貝の卵成熟と産卵機構に関する研究
- 石樋由香さん（生産システム部増養殖システム研究グループ・研究員）
現在の研究課題：藻場や干潟の食物網の調査



養殖研究所

◎南勢庁舎
〒516-0193 度会郡南伊勢町中津浜浦 422-1
TEL: 0599-66-1830 FAX: 0599-66-1962
URL: <http://nrria.fra.affrc.go.jp/>

執筆 者

企画・運営サポーター
竹内 令さん



フレンテみえ 企画・運営サポーターの窓

フレンテみえ企画・運営サポーターが男女共同参画の視点でみた身近なことをコラムでお届けします。

女性史編さんで得たもの

自身の成長を実感した女性史編さん

手帳を引き出して調べたら、私が女性史に関する会議に初めて出席したのは、2005年3月。「総合文化センター設立15周年記念を目指し、5年がかりで…」当時の鈴山所長の言葉を、身が引き締まる思いで聞いたことを思い出します。5年という長丁場に、私自身の、そして家族の健康を案じはしました。がしかし、責任感に火を付けられたのです。

戦前・戦中・戦後の激動を乗り越えながら女性の地位向上に立ち向かった人々。その生き様を後世に伝えるのは、同じ空気を吸った私たち年配女性の責任との思い。

学習会が始まったのは2005年6月。その後3年ほどは、年表作成のための「市町村史・新聞調査」、聞き書きのための「聞き取り調査」と「文章化」、PR用の「パネル作成」、男女共同参画フォーラムでの「プレゼンテーション」、そして「原稿校正」。

調査研究員メンバーは、肩や手首を傷めたり目を傷めたり、家族に応援を頼んだり。「みんなよくぞやった」と自画自賛するこの頃です。このプロジェクトに関わった者は全員、自分自身のめざましい成長を感じているはず。大きなものをくれた事業でした。

ページ数などの制約もあり、省かざるを得なかったものがあります。また、視点を変えての編さんの必要も論じられました。「三重の女性史パートII」を、若い方たちに期待しています。

News

「三重の女性史」は明治～2000年にかけての女性の歴史を通史・聞き書き・年表の3部構成で紹介し、なぜ男女共同参画が必要なのか改めてみつめ直していただける貴重な資料です。発刊記念イベントについての詳細はP.4をご覧ください。

男女がいきいきと働いている企業募集！

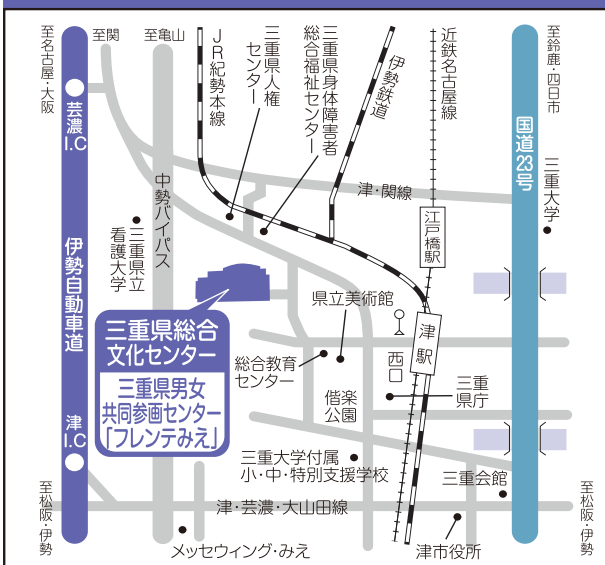
News

男女共同参画フォーラム
～みえの男女2009～
2日目の午後の部で
企業表彰式を行います！

11.14.
土曜日



三重県男女共同参画センターまでのご案内



三重県では、男性も女性も各々が持てる力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場環境づくりを支援するために、男女がいきいきと働いている企業を表彰しています。

対象企業

県内に本店または主たる事業所があり、営利を目的に経済活動を行う企業で、次のいずれかの項目について制度化や取組を行っている場合。

- ★女性の能力発揮や職域拡大の推進、男女の均等なキャリア形成等のため、従来の制度や慣行を見直し、新たな取組や制度を導入している。
- ★仕事と家庭の両立支援のため法律の規定以上の制度・内容を実施し、安心して子どもを生き育てられるよう取り組んでいる。
- ★地域社会との共存を目的に、ボランティア活動や環境活動を実施したり、NPO活動等を支援するなど、CSR(企業の社会的責任)活動を規定して取り組んでいる。

応募期間

平成21年7月1日(水)から8月31日(月)まで(必着)

応募・問い合わせ先

三重県 生活・文化部 勤労・雇用支援室
TEL 059-224-2454 E-mail kinko@pref.mie.jp
ホームページ <http://www.oshigoto.pref.mie.jp/>



三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地

TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135

URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

E-mail : frente@center-mie.or.jp

交通 ■バス 三重交通路線バス 津駅西口から約5分 ■徒歩 津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、伊勢自動車道津インターから約10分
※駐車場は約1,400台(無料)できるかぎり、公共交通機関をご利用ください。